こうのとり、たちずさんで

■『旅芸人の記録』『霧の中の風景』の
テオ・アンゲロプロス監督作品

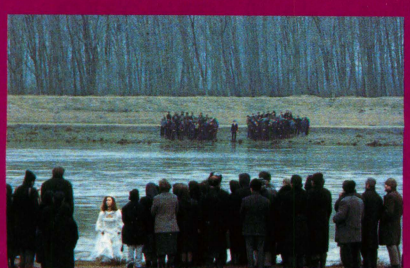
河と湖の北ギリシアで
TVリポーターが追う失踪した政治家
愛のわたり鳥 こうのとりが翔び
無言の人々の 胸をうつ旅が始まる
国境を超える愛を叙情で詩う
アンゲロプロスの黙示録

το μετέωρο βήμα του πελαργού

マルチェロ・マストロヤンニ、ジャンヌ・モロー、グレゴリー・カー、イリアス・ロゴテティス、ドーラ・クリシクー

●監督・原案・脚本・製作テオ・アンゲロプロス／脚本トニーノ・クエッラ、ペトロス・マルカリス、タナシス・ヴァルティノス／撮影ヨルゴス・アルヴァニティス、アンドレアス・シナノス／美術ミケス・カラピペリス／音楽エレニ・カラインドロウ（サントラ盤ポリトール）／ギリシア・仏・スイス・伊合作
ギリシア映画／日本語字幕 池澤夏樹／製作、及び、C 1991 ARENA FILMS, TH.ANGELOPOULOS, GREEK FILMCENTER, WEGA FILM, ERRE PRODUZIONI

フランス映画社配給
パウ・シリーズ作品



●テオ・アンゲロプロス監督作品

こうのとり、たちずさんで

το μετέωρο βήμα του πελαργού

フランス映画社配給●バウ・シリーズ作品

「こうのとり、たちずさんで」は、「霧の中の風景」に次ぐテオ・アンゲロプロス監督の最新作で、長編第9作。「シテール島への船出」から追求する国境と人間、そして愛のテーマを、難民を主人公に真正面から極める意欲作。

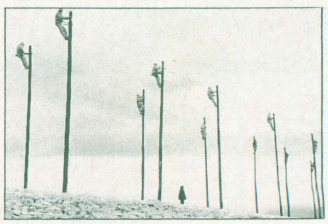
91年カンヌ映画祭で大賞候補の本命と見なされながら、娯楽路線重視のロマン・ポランスキー審査委員長に黙視されて無冠の帝王に祭りあげられ、ポランスキーの姿勢が映画祭後に各国ジャーナリズムの激しい批判にさらされたことはまだ記憶に新しいところだ。↘

TVリポーターのアレクサンドロス（グレゴリー・カー）は、国境をテーマとする番組作りのためにギリシア北部に向かう。難民の集まる国境のその町で、翔びたつこうのとりのまねをして〝翔んでよそに行けるか、あるいは死か、それが国境だ〟と語る警備部隊の大佐（イリアス・ロゴテティス）に出会う。そして、入国許可を待つ難民の中に、数年前謎の失踪を遂げたまま、生死の知れない〈政治家〉に似た男（マルチェロ・マストロヤンニ）を見かける。

アテネに戻ったアレクサンドロスは〈政治家〉の妻だった夫人（ジャンヌ・モロー）に協力を求めるが断られ、局の許可を得ぬままクルーを連れて国境の町に戻る。そしてある夜、不思議な〈少女〉（ドーラ・クリシクー）と無言の愛を交わす……。

目を見はる全編の映像美と、難民から再難民となって国境を越え続ける主人公の壮絶な旅の物語。そして河越しの無言の結婚式と、息をのむクライマックス・シーンが呼ぶ感動は、カンヌ映画祭の傑作の歴史に新たな1頁を刻みこんだのだった。

世界的な大スター、マルチェロ・マストロヤンニとジャンヌ・モローの共演は、アントニオーニの「夜」（61）以来。また、ギリシアの人気ロック歌手グレゴリー・カーの好演、毅然とした美しさのドーラ・クリシクーの抑えた演技が光る。↖



［キャスト］
〈男〉（政治家）／マルチェロ・マストロヤンニ、夫人／ジャンヌ・モロー／TVレポーター、アレクサンドロス／グレゴリー・カー、国境の大佐／イリアス・ロゴテティス、〈少女〉／ドーラ・クリシクー、国境のホテルの主人／アシノドロス・ブルーサリス、アルバニア人の花婿／トドロス・アテリディス、少年／コンスタンテイノ・ラゴス

●1991年ギリシア映画／カラー（1×1.66）／2時間22分／日本語字幕
池澤夏樹／宣伝デザイン　小笠原正勝／製作および©1991 ARENA FILMS, TH. ANGELOPOULOS, GREEK FILMCENTER, WEGA FILM, ERRE PRODUZIONI

アンゲロプロスがこの脚本を書いたのは2年半前。TVドキュメンタリーのロケハンのために行った北の国境の町で、大佐と、3色に色分けされた国境線に出会ったのがきっかけだった。〝アテネに戻った私は、あれこそ1本の映画の始まりだと思った。トニーノ・グエッラと、いつものように脚本にとりかかったが、最初から大佐のあの言葉、あの姿で始めるという考えは不動だった。片足を宙に吊られたように上げ、空に翔びたつ時のようなこうのとりのイメージが浮かんでいた〟と語る。

撮影は、北ギリシアのフロリナという、昔のたたずまいを残した小さな町を中心に行われた。大きな河が町を二分する、という設定のために、実際は小さな河を、撮影のためにダムで堰き止めて水位を上げる、大がかりな作業が必要だったが、町ぐるみの協力を得て、撮影は順調に進められていた。

しかし、地元の司教が「脚本の一部が反国家的で反道徳的である」として監督以下、エキストラも含む全ての俳優と技術スタッフをギリシア正教から破門すると宣告、撮影を妨害し始めたのである。

そのためエキストラや地元からのスタッフに辞退者が続出、音の妨害で撮影自体も大幅に遅延、製作中止の危機にさらされるという事態になった。

それを知った監督たちが、世界中から支援文を寄せ（日本から黒澤明、大島渚、来日中だったヴィム・ヴェンダース、アメリカからマーティン・スコセッシ、イタリアからエットーレ・スコラ）、その友情に支えられて、アンゲロプロスは演出プランを一切変更することなく作品を完成したのである。

《美を追求し、真摯に胸をうつ》（〈ル・モンド〉紙）と絶賛され、「こうのとり、たちずさんで」は、パリでの「霧の中の風景」を上まわるヒットをはじめ、ヨーロッパ各地でロングランしている。

原題は〈こうのとりの中断された一歩〉。

［スタッフ］
監督・原案・脚本・製作／テオ・アンゲロプロス、脚本トニーノ・グエッラ、ペトロス・マルカリス、脚本協力／タナシス・ヴァルティノス／撮影ヨルゴス・アルヴァニティス、アンドレアス・シナノス、美術／ミケス・カラビベリス、衣裳／ヨルゴス・パッツァス、録音／マリノス・アタナソプロス、ミキシング／タナシス・アルヴァニティス、音楽／エレニ・カラインドロウ（サントラCD＝ポリドール）、編集／ヤニス・チチョプロス
制作／フィービ・エコノモプーロウ、コー・プロデューサー／ルート・ヴァルトブルガー、アンジェロ・リツォッリ、製作／ブリュノ・ペズリィ

8月下旬より ロードショー！

シャンテシネ2
日比谷・東宝映画街　03(3591)1511

●上映時間（連日）

11:00	1:45	4:30	7:15

特別鑑賞券1400円 好評発売中（当日一般1700円 大高生1500円の処）
劇場窓口、都内各プレイガイド、チケットぴあ、チケットセゾン、CNプレイガイド、大学生協　他
●グループ鑑賞のお申込は㈱メイジャー（3541）2508へ